

「第6次白岡市総合振興計画基本構想（案）」に係るパブリックコメントの結果について

総合政策部企画政策課

番号	意 見	意 見 に 対 す る 考 え 方
1	基本構想の拝見した率直な感想を申し上げます。私は隣の宮代町で出生、親類なども市内に居住、白岡駅を通学に利用していたことから市および近隣市町は大変なじみのある土地です。就職までの22年間特別な感情を抱かずに居住していましたが仕事に就き地方都市で10数年以上生活するにつれ白岡市の都市計画の情けなさや遅滞に嫌悪感を覚えるまでになりました。皆さんが聞いたことも無いような地方市でもスピード感をもって都市整備がされています。P14～16に記載の通り産業の振興、駅周辺の整備、幹線道路の整備はまさしく必要事項ですが数年前の計画にも同じような事が記載されていました。駅前の整備すら数十年数進めていない状況で本当にやる気があるのでしょうか？阻害要因は何なのでしょうか？（あくまで計画と言われれば それまでですが） 目標人口5.2万とのことですが本当にそれで記載されている計画はできるのですか？もっと企業誘致や宅地化による人口増を打ち出して財政確保する必要があるのではないですか？住みやすい街づくりと言葉は見かけますが、衣料品についても久喜や春日部など他市に依存していますよね？市の中で完結できることのほうが少ないですよね。どこが住みやすいのでしょうか？適当な数字を並べてそれらしい資料を作ることが目的になっていませんか？今思えば平成の大合併になぜ他市と合併しなかったのか悔やまれますし、この40年は市政（町政）の失敗だと思います。住んでいるものとしては可能であれば今からでも他と合併してほしいくらいです。白岡の名前がのこるより真の住みやすい街にしてもらうことを望みます。	本市では、社会情勢の著しい変化や厳しい財政状況の中、選択と集中により、子育て支援策の充実、土地区画整理事業の推進、生涯学習センターの整備などの各種事業を実施してきました。今後においても、人口減少や公共施設の老朽化などに伴い、厳しい財政状況が見込まれますが、財源の確保や歳出の削減を図る行財政改革に取り組み、市の発展に資する各種事業の推進を図っていきます。 人口については、本市では平成30年、全国的には平成20年をピークに減少傾向に転じており、時期の違いはあるものの、今後も人口減少が進行することが予想されます。厚生労働省の研究機関であり、日本の将来推計人口等の作成を行う国立社会保障・人口問題研究所が公表した本市の人口推計の結果においても、人口減少が予想されているところです。目標人口につきましては、令和2年の人口が52,404人となっており、これまでの人口の推移などを踏まえて、おおむね維持をしていくものとしたところです。全国的に人口が減少する中、本市におきましても、人口減少は避けられないものと考えておりますが、子育て支援の充実などにより、住みやすいまちを目指していきます。

2	1. 白岡自慢の発見・創造の大切さ、まちを愛する気持ち醸成する内容を求めます 遠方の親戚・知り合いに毎年ナシを発送して極めて好評を得ています。またその時期には自宅でも豊水・幸水など楽しんでいます。昨今、その特産品の購入に苦労するようになり、今後の産業の行方を心配しています。行政が支援し、まちとして産業の育成に努力すべきです。 またナシ以外にまち自慢を発見・創造すべきです。まち自慢は必ずしも農産品や製品にこだわる必要はありません。市役所サービスの迅速さやきめ細かさ、道路の整備、安心・安全性など、「まち自慢」を持ちましょう。他県・他市の方との語り合いの中で誇りを持って語れることを持つことが大切です。 その様な発想を市の構想・計画に織り込んで下さい。 2. 市の構想・計画は市民感覚・庶民理解を基本にしてください 構想の各所に出てくるカタカナ言葉・アルファベット言葉・それに付随する難解な言葉はこうした文書からは除くことができないか、考える必要があると思います。A I、I C T S D G s の達成に寄与する取組、S o c i e t y 5 . 0、I o t、アクティブラーニング、プラットフォームビルダー、コーディネート、サテライトオフィス、コンパクトシティ、5 G、R e d e s i g n（リデザイン）、将来フレーム、農業ゾーンのスプロール化、自治体D X（自治体デジタルトランスフォーメーション）などなど。 これらの言葉は可能な限り使用しない、概念として使用する必要があれば日本語で置き換えることが必要ではないでしょうか。市民が平易に読める文章が必要。論文ではないのですから。特にR e d	本市の特産品である梨については、生産者及び作付面積の減少が続いている状況です。梨生産者を含めた農業者への市の取組は、基本構想を踏まえて策定する基本計画に位置付けます。 また、市の魅力についても、積極的に発信していく必要があると考えられますので、基本計画に位置付けます。 わかりにくい言葉や略語は、可能な限り、平易な言葉に置き換えるとともに、注釈などで表記していきます。 「Redesign（リ・デザイン）」は、市民フォーラムの結果などを踏まえて、採用しております。これまで築き上げてきたまちを更に発展させていくために変化する時代に適応した新たなまちづくりを行い、これまで以上に住みやすい魅力あるまちを市民とともに作り上げていくという意味を込めています。
---	--	--

	e s i g nという語に力点があるように感じますが、賛同できません。 3. 高齢化・人口減少をマイナスに捉えないでください 人口減少に転じた、高齢化が進展する、などの現象は日本全体に見られます。白岡市が例外でいません。 その上で、財源面では国の支援をしっかりと確保する（そして国の予算の使い方に対してもしっかり意見する）ことが必要です。 労働人口の減少に関しては、外国人の労働力の本格導入の時期が来ることに異論はないと存じます。これら外国人労働者や移民者との共存のための施策が必要です。構想の中で言及されることを求めます。 4. 大型商業施設は必要とは思いません 欲しがらないでください 大型商業施設は必要でしょうか。限られた場所の選定、交通渋滞対策、そしてすでに菖蒲・久喜・幸手・春日部など周辺にモールがしっかりあります。むしろ白岡市内の小規模商店への援助が必要です。	財源に係る内容は、財政運営全体や各種取組ごとに基本構想に位置付けます。また、雇用及び外国人に関する取組については、それぞれ、必要に応じて基本計画に位置付けます。 第5次白岡市総合振興計画の土地利用基本構想においては、商業施設等の誘致を図るため、商業系土地利用検討区域を設けていたが、第6次白岡市総合振興計画の土地利用基本構想では、産業系土地利用検討ゾーンに変更し、商業施設以外も含めた土地利用を検討することとしています。 市内の商業事業者への支援に係る市の取組については、基本計画で位置付けます。
3	Ⅱ 基本構想（案）に関する意見 第2章将来フレームの2「土地利用基本構想」の土地利用構想図が大きく変更されている。「都市機能拠点ゾーン」「複合的土地利用ゾーン」「産業系土地利用検討ゾーン」「沿道サービスゾーン」が新たに設定され、従前の「商業ゾーン」「公共公益ゾーン」「公園・レクリエーションゾーン」「商業系土地利用区域」「複合的土地利用区域」「工業系産業誘致区域」「商業サービス誘導区域」「住宅系まちづくり検討区域」「計画的開発検討区域」「レクレーショ	全国的に人口減少が進む中、本市においては人口を維持していますが、今後は人口減少が進行することが予想されることから、新たな住宅系の土地利用は現実的には難しい状況です。 大山地域や菁莪地域につきましては、生活利便性の向上や地域活性化などに資するため、産業系土地利用検討ゾーン、沿道サービスゾーンとして位置付け、新たな土地利用を検討するものとしています。

	ンの土地利用検討区域」が廃止されている。従前に比べて内容が大きく見直され、実現可能性を重点化したものと思われるが、第4章まちづくりの基本課題の「5 都市基盤・住環境・公共交通」で述べている「均衡ある発展」「埼玉県版スーパーシティプロジェクト」との連携を考えれば住居系誘致区域や東西地域の「田園住宅地での持続可能なレジリエント」を推進していく土地利用構想を期待する。よって大山地域や菁莪地域の住民としては「産業系利用検討ゾーン」「沿道サービスゾーン」は理解しますが人口減少の解消には「住居系ゾーン」の位置づけが不可欠と思う。	
4	全般的な事項 ①聞きなれない表現が多く用いられているが、平易な表現を心がけ、市民にとって分かりやすい計画書となるよう配慮して欲しい ②市民の安全対策（防災・減災、老朽化対策など）を優先して欲しい ③市民の健康で文化的な生活を支える施策を優先して欲しい 〔福祉（保育、介護）、社会保障。医療、教育・文化施設などの水準の向上など〕 ④国あるいは県で作成した上位文書、あるいはその他広く一般には知られていない文言を引用する場合は、正確を期すため引用章を設け当該文書あるいは文言の根拠を容易に参照できるようにして欲しい I 序論 第1章 1 ①平成23年度において「第5次白岡市総合振興計画」は「第5	わかりにくい言葉や略語は、可能な限り、平易な言葉に置き換えるとともに、注釈などで表記していきます。 防災・減災及び老朽化対策に関する取組については、基本構想を踏まえて策定する基本計画に位置付けます。 福祉、社会保障、医療、教育及び文化などに関する取組についても基本計画に位置付けます。 わかりにくい言葉や略語は、可能な限り、平易な言葉に置き換えるとともに、注釈などで表記していきます。なお、国及び県の文書を参考にしている箇所もありますが、文章をそのまま記載している箇所はありません。 策定の際は、第5次白岡町総合振興計画でしたが、その後の市制

次白岡町総合振興計画」であったが、本文中では最初から「市」となっているように読めます。修文が必要ではないでしょうか。 ②「ＩＣＴ」とせずに「情報通信技術」とした方が分かりやすいのではないのでしょうか、脚注までつけてあえて「ＩＣＴ」を使う意味はあるのでしょうか 2①「まち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略の内容を備えており」とするのであれば、具体的にどの事項がそれを備えていることなのかわかるようにして欲しい ②「各施策分野との関連性を明確にし、ＳＤＧｓの概念を反映させた計画として策定」とあるが、本案の中には具体的に表現されている箇所がないのではないのでしょうか 第2章 1①高齢者の割合が増加していることについて、「医療・介護の給付費の更なる増大が懸念されます」とあるが、医療・介護の給付費を抑制することが当然のように読めます。しかしながら、現状で必要以上に医療・介護について給付費が支出されているのでしょうか。十分に検討した結果としての給付費の支出であるはずですが、そうであるならばここは「懸念」ではなく「見込まれています」あるいは「想定されます」などとすべきではないでしょうか。 2①「新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式、コミュニケーション、仕事に多大なる影響を与え、新しい価値観や文化が生まれるきっかけとなった一方、未知なる脅威に突然襲われるリス	施行により、第5次白岡市総合振興計画と読み替えているものです。 新聞報道等でも同様の表記ですので、一般的に浸透している言葉と考え、掲載をしているものです。また、ＩＣＴは略語ですので、注釈により内容を表示しているものです。 地方版総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、まち・ひと・しごと創生に関する目標、市町村が講ずべき施策に関する基本的方向及び市町村が講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項について、定めるものとしています。目標は基本構想における分野別の政策目標、施策及び必要な事項は基本計画における取組と合致する予定です。このため、第6次白岡市総合振興計画全体がまち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略として、内容を備えていると表現しているものです。 ＳＤＧｓは、基本計画において関連性を明確するものとして位置付けます。 社会動向は、国などの大きな視点で整理しており、本市には当てはまらない内容があり、また、わかりにくい表現や内容を多く含んでいるため、全体を削除する方向で検討しています。その場合は、本市に関連のあるものは、「まちづくりの基本課題」に追加する修正を行います。
---	---

クがあることを改めて社会に認識させました。」とありますが、認識させられたのは、「未知なる脅威」に突然襲われた際に対応できない保険・医療体制ではないでしょうか。

国はSARS, MARSの世界的な流行を踏まえた「WHO Global Influenza Preparedness Plan (WHO 世界インフルエンザ事前対策計画)」に準じて、2005年12月に「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定しています(2009年2月に改定)。新型コロナウイルスは未知ではありますが、「未知なるウイルス感染症」により引き起こされているパンデミックは同計画において想定されて来たことであり「未知なる脅威」ではありません。用語として「未知なる脅威」を用いた場合に、責任の所在を不明確にする効果があり「未知なる脅威」は用語として不適切であると考えます。

国は同計画において「発生前の段階では、水際対策の実施体制の構築に加え、抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄や地域における医療体制の整備、ワクチンの研究・開発と供給体制の整備、国民に対する啓発や政府・企業による事業継続計画等の策定など、発生に備えた事前の準備を周到に行っておくことが重要である。」としています。しかしながら、結果として「地域における医療体制の整備」ができていないため(保健所や医療機関の統合の促進及び医師・看護師やその他の医療機関の就業人員をむしろ抑制してきていることなど)、今回の新型コロナウイルス感染症拡大に対して、同計画で「周到に行っておくことが重要である」とされている「地域における医療体制の整備」が十分にできておらず、対応しきれていないことが問題なのではないでしょうか。福島原発事故の際にも「想定外」の規模の津波の発生によると東電や国は主張する向きもありますが、専門家に指摘されていた重大事故につながる想

定を軽んじてきたことによる事故であり決して単純に「想定外」として片づけられることでは無いと考えます。今回の新型コロナウイルス感染症の拡大についても、「備えあれば患いなし」の備えをどこまで行うか、改めて考えなおすきっかけとなったととらえるべきだと考えます。 ②「安心・安全なまちづくりを実現するためには」「多様な主体が連携」するだけでは不足ではないでしょうか。地震その他の自然災害、疾患に対する備え、人工物による災害、事故への備えなど、消防体制・防災対策、保険・医療体制などの見直しが必要だと考えます。 3 ①ここに「持続可能な社会への取組」をいれることは、唐突に思えます。内容に具体性を感じません。 4 ①表題を単純に「デジタル技術の活用」とした方が分かりやすいのではないのでしょうか。 5 ①「プラットフォームの形成」「プラットフォーム・ビルダー」などといわれてもしっくりきません。プラットフォームは「話し合いの場」、あるいは単に「場」とし、プラットフォーム・ビルダーを「場づくり」とでもした方が分かりやすいのではないのでしょうか。 6 ①「加えて、一つの自治体のみで行政サービスを担うのではなく、複数自治体間の連携を通して、持続的な行政サービスの提供、新たな価値の創出につなげる必要があります。」について異論はありませんが、財政基盤維持の項に入れることが適切かは疑問です。結果として単独の自治体で何かをするよりも支出が少なくなる可能性はありますが、複数自治体間の連携は財政的なことを主たる目的で行うべきことでしょうか。 第3章 1 ①グラフから想定されますが、施策にもつながりますので子育て	子育て世代の転入について、追加します。
---	----------------------------

世帯の転入が多い事も述べてはいかがでしょうか。 2 ①特産の梨農家が減少していることを率直に述べてはいかがでしょうか。 ②年間商品販売額が平成16年と19年において突出している原因は何でしょうか。分析結果を記述する必要があると思います。 第4章 1 ①財政に占める民生費の割合が、全国平均と比較して高いということは、医療・福祉の諸指標が全国平均よりも相対的に高いものが多いととらえて良いのでしょうか。現在の記述ではそのように類推されますが、各種の医療統計などでは、診療所・病院数、医師数など白岡市および近隣の利根医療圏は全国平均からかなり低い水準になっています。この計画のどこかで医療環境の改善が必要であることを述べるべきではないかと思います。 ②「これまでの制度では対応が困難なケース」事例をいくつか挙げて何を解決しなければならないのか、「包括的な支援体制」がどのような事を解決することにつながるのか見えるようにしたい。 2 ①「柴山沼や見沼代用水路などの水辺環境、水田や特産品である梨の栽培を行う梨園などの農地が広がる環境に恵まれたまちです。」とあるが、その環境（水田耕作面積、梨園など）が徐々に失われていく傾向にある事にも触れるべきではないでしょうか。 ②「新型コロナウイルス感染症をはじめ、市民生活を脅かす様々な脅威に対して柔軟に対応していくこと」は、医療機関の充実な	特産品である梨農家も含め、農業経営体数が全体として減少しています。梨の振興に関する内容は、「まちづくりの基本課題」に記載しています。 平成16年は、全国的な消費動向による増加であり、平成19年は、近隣市町の商業施設の開設による減少と推測されますが、国の統計値であることから、詳細な理由が不明確のため、増減傾向のみを記載しています。 全国平均と比較して民生費の割合が高いことについては、健康・医療・福祉関連経費を多く支出している状況ということです。このため、今後も高齢者数の増加に伴い、更なる増加が見込まれます。地域医療の推進は、土地利用基本構想で記載するとともに、基本計画で位置付けます。 具体的な事例としては、老老介護や8050問題などを想定しています。これらの内容は、必要に応じて基本計画で位置付けます。 農業関係は、「4 産業・雇用」において記載しています。 内容が不明確でわかりにくいことから、削除します。
--	---

どの医療体制の整備を意図しているならば「様々な脅威」について「市民生活を脅かす」では広すぎると思われますので、具体的に「市民生活を健康に送る事を脅かす」などとしてはどうでしょうか。また、「柔軟に」とは、従来の規制に捉われないことを意図しているのであれば、その旨分かりやすく表現して欲しい。広く市民生活一般を脅かす脅威に対して柔軟に対応することを意図しているのであれば、例示として「新型コロナウイルス感染症」以外にも医療とは別途の観点の脅威も例示に含めて欲しい。 3①「生涯学習分野においては、関連事業への参加者や施設の利用者が減少傾向にある状況」は、白岡市のみの現象ではないのでしょうか。なぜそうなっているのかを大きな視点で分析しないと解決の方向性を誤ってしまう恐れがあります。この状況に至った原因等の分析が欲しいと思います。 4①「産業の振興を図っていく必要」があるならば、どんな産業なのでしょう。一般論ではなく、例えば工業団地への事業所誘致を想定しているのならばそのような方向が見えるように書いて欲しい。 ②「農業経営体の更なる減少が懸念」とありますが、従来からの取組の継続では減少を食い止めることができていないのであれば、これまでにない新たな方針を立てる必要性がある事にも言及すべきではないでしょうか。 ③「駅周辺の整備」の必要性は、相当以前からうたわれてきているにも関わらず実現していないのではないのでしょうか。駅周辺の商業集積はこの計画の10年間のなかで可能と考えているのでしょうか。商業施設の集積を駅周辺のみに求めているように読めますが、それでよいのか疑問です。 5①「東西方向の幹線道路などを早期に整備」することで、「均衡ある発展」に本当につながるのか疑問です。現状の道路で渋滞な	後段として、生涯学習の役割、市民への学習や活動機会の提供が求められていることを追加します。なお、これらの詳細の課題などについては、必要に応じて基本計画で記載します。 産業の振興は、基本課題のとおり、農業、工業及び商業が主なものです。それぞれの具体的な取組は、基本計画で位置付けます。 農業に関する具体的な取組は、基本計画で位置付けます。 白岡駅周辺整備に関する事業としては、白岡駅西口線の整備及び白岡駅東部中央土地地区画整理を進めていますが、現状では完了していない状況です。今後については、これらの事業を優先的に実施していく予定です。また、商業を含めた市全体として産業系の土地利用は、土地利用基本構想に記載しています。 東西地域から駅までの交通利便性を高めるために、幹線道路の整備に加え、公共交通の充実を追記します。
---	---

どほとんど認められていないように見えますが、新しい幹線道路ができる事でなにが解決して「均衡ある発展」につながるのか説明が必要ではないでしょうか。 ②高齢者の移動目的は、買い物、通院、趣味などが主であると考えられますが、交通手段を単に整備するのみでは解決できないことではないでしょうか。そうであるならば、高齢者の買い物や通院に役に立つ手段、例えば巡回スーパーマーケットや通院バス（バスの中で受付ができるようにするなど）などの「移動等の支援」に関連して新たな未来志向（ＩＴを駆使するとこれまでにない事ができると思われます）の方向性も示唆して欲しい。 ③「強靱性の高いまち」とはどのような事なのかイメージが湧きません。何が強くなるのでしょうか。 6 ①「行政のみで解決することが難しい課題が多くなって」来ているのは、「地域が多様化・複雑化」してきていることが主要な原因なのか疑問です。白岡市は農村としての性格が弱まりベッドタウンとしての性格を濃くしてきていますが、「地域が多様化・複雑化」とはそのことを指すのでしょうか。多様な背景を持つ住民・地域があった場合に「行政のみで解決することが難しい課題が多くなって」来ると考えているのでしょうか。決してそういう意味ではないと思いますが、わかるように記述していただけたらと考えます。「多様な主体が協力し合うことが重要」については賛成します。 7 ①「高度経済成長期に整備した社会インフラ」の「更新」は必須であり、安心・安全に暮らすためにはなくてはならないことなので、「財政負担の増加が懸念」ではなく「相当の財政負担増が見込まれます」など財政負担増は必要な事であることを暗示すべき	買い物支援などの取組については、基本計画で位置付けます。 県の取組の趣旨は、「持続可能なまち」であるため、修正します。 多様化・複雑化しているのは、「市民ニーズ」であるため、修正します。 「懸念され」を「見込まれ」に修正します。
--	--

ではないでしょうか。 Ⅱ 基本構想 第1章 2①「発展を続け、着実に成長してきました」とありますが、「着実に」があると読んでいて気になります。単に「発展を続け、成長してきました」としてはどうでしょうか。 ②『Redesign（リ・デザイン）』に期待を込めた表現ではありますが、『Redesign（リ・デザイン）』とは単に再設計することであり、従来の延長線上ではないことを意味しているだけなのではないでしょうか。聞きなれない表現を用いる事で、なにか急にうまく行くように感じさせる効果がありますが、実際はそんなに甘くはないと考えられます。もっと地に足がついた表現にして欲しい。 第2章 2（1）①「コンパクトかつ地域間をつなぐネットワークの形成」とありますが、「コンパクトなネットワーク」とは何を意味しているのかよくわかりません。 （2）①第5次総合計画とゾーンの表現や定義が変わっていますが、どのような意図があるのかQ&Aなどで説明して欲しい。 ②「優良農地の保全・確保」のためには農業従事者の確保が必要であると思われませんが、そのための方策をどうするのかどこかに明示して欲しい。 ③「都市機能拠点ゾーン」をJRの駅周辺に置いているが、駅前から歩いて数分の「中央通り」沿いに形成することは考えないのでしょうか。全国には駅から離れた所に商業中心がある所がたくさんあります。 ④「医療福祉拠点の基盤整備」とは具体的にどのような事を想定しているのでしょうか。また、「医療福祉拠点」と	「着実」を削除します。 将来像として、「Redesign（リ・デザイン）」は、これまで築き上げてきたまちを更に発展させていくために変化する時代に適応した新たなまちづくりを行い、これまで以上に住みやすい魅力あるまちを市民とともに作り上げていくという意味を込めています。 「コンパクトなネットワーク」という意味ではありませんので、「コンパクトなまちづくりと公共交通によるネットワークの形成を推進し」という表現に修正します。 新たな土地利用の定義は、「2 土地利用基本構想」の「(2) ゾーン別の土地利用の方向性」に記載しています。 農業に関する具体的な取組は、基本計画で位置付けます。 JRの駅周辺において、土地区画整理事業等による市街地整備を進めてきたことや白岡駅西口線の整備を進めていることから、JRの駅周辺を都市機能拠点ゾーンとして位置付けたものです。内容については、基本計画で位置付けます。 医療福祉拠点の基盤整備は、医療福祉施設を立地するために必要な道路、上下水道などの公共施設の整備を想定しています。
--	---

はどのようなものでしょうか、イメージできません。単に大病院の誘致を想定しているだけなのであれば不十分だと思います。「基盤」とは道路や交通網の事でしょうか。 「整備された医療福祉拠点」の模範となるような地域がどこかにあるのでしょうか。この計画は10年単位ですが、医療福祉拠点はより長期間機能しますので、将来を良く見据えて目指すべきものがどのようなものかもっと具体的に示して欲しい。 ⑤「白岡中学校北側区域」は「市民の生活に資する産業系の土地利用」とありますが、大型商業店舗の誘致などを考えているのであれば、不十分だと思います。市民生活を豊かにするために、大きな公園などの憩いの場の構築も考えるべきではないでしょうか。その場合には高齢者や障がい者などにも配慮した未来のモデルとなるような公園として欲しい。また、この項には適切ではないかもしれませんが高齢者や障がい者、子どもたちが喜んで利用できる公園を住居の近くに沢山作ることも計画に含めて欲しい。 第3章 ①第3章全般として、予算措置の優先順位など記述されていないので、絵に描いた餅の感がぬぐえません。 5①「コンパクトなまちづくり」、「コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり」のイメージがわかりません。特に「コンパクト」の意味する事が具体的にどのような事なのかわかりません。「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」で、大山地域や菁莪地域の問題が解決するのもよく解りませんでした。	産業系土地利用検討ゾーンについては、様々な可能性を考慮して設定したもので、詳細については今後検討していきます。 総合的かつ計画的な行政運営を図るため、各行政分野の方針を明らかにしているものとして、記載しています。 市街地や地域の一定の区域に居住や医療・福祉・商業施設などの立地を誘導し、これらを公共交通などでネットワーク化することで地域の方々の利便性の向上を図るものです。
--	---

5	第6次白岡市総合振興計画基本構想(案)に対する意見 ○計画案全体についての意見 ①文章表現のなかで一般市民が日常的に接せる機会の少ない表現が多々あり、なるべく平易な表現とすることが望ましいと思います。 ②阪神大震災、東日本大震災の被災を踏まえ、今後予想される首都直下地震、関東平野北西縁断層帯地震、茨城県南部地震、南海トラフ地震などでの災害を想定し、福島原発災害の状況を鑑み近隣の原発施設の災害と発生と気象状況を考慮した対策が望まれます。また、近年世界的な異常気象に伴う災害が発生しているので、白岡市でも元荒川、小河川、開発に伴う側溝などの具体的洪水対策を明示して頂きたい。 ③新型コロナ感染の終息はいまだに見えないことから、今後も医療体制の充実が必要と思われるので、具体的政策を示して頂きたい。 ④本政策を作成するに当たって、引用また参考にされた文献名を分かる様にして頂くと良いと思います。 I 序論について 第1章 計画の策定に当たって 1 計画策定の趣旨 白岡市自治基本条例を簡素に組み入れた表現としたらどうでしょうか。 2 計画の位置付け SDGsについては、注釈がありますがもう少し具体的に表現した方が良い様に思います。 3 計画の構成と期間 基本計画について、文章では計画期間5年となっているが図表の中では前期、後期で表現されているので統一して表現された方が良いでしょう。 第2章 社会動向	わかりにくい言葉や略語は、可能な限り、平易な言葉に置き換えるとともに、注釈などで表記していきます。 基本課題として水害の備えについての記載はありましたが、地震の備えについての記載を追記しました。また、具体的な防災対策は、基本構想を踏まえて策定する基本計画で位置付けます。 地域医療の充実は、基本計画で位置付けます。 国及び県の文書内容を参考に掲載している箇所もありますが、文章をそのまま記載している箇所はありません。 白岡市自治基本条例が定める自治の理念を踏まえながら、本計画を策定しています。 SDGsは、基本計画で関連性を明確するものとして位置付けます。また、具体的な内容の説明について、基本計画への掲載を検討します。 図中に記載のある「前期」「後期」を削除する方向で検討します。
---	--	---

1 人口減少少子高齢化の進展 生産年齢人口の減少は、日本経済低迷の要因となるため、女性・高齢者の社会進出や希望出生率の実現に向けた取組を更に推進する、とあるが、女性や高齢者が働ける環境を整えることは非常に重要である。それと同時に、これだけ生産性が増している中で日本経済が低迷する理由は他にもあるのではないのでしょうか。 2 生活に対する脅威の増加 計画全体について、指摘した事項を参照されたい。 3 持続可能な社会への取組 SDG s の目標は非常に重要であるが、地域社会がSDG s の達成に取り込むことで、地域における課題解決および持続的な発展を実現し、地方創生を推進することが期待されている、とあるが、白岡市は重点項目として何を取り組まれるのでしょうか。 4 産業構造の変化とデジタル技術の発展 デジタル技術の発展で市民の中でも活用して行くことは重要な課題であるが、まだそうした環境にない市民の方もいるのでその様な人のことも考慮する必要がある。また、子供の教育にとっては特に自然とのふれあいが重要であることを基本としてAI活用の使用に当たっては総合的に行う事が重要と思います。 5 協働による地域課題解決の必要性 文章の中ほどより、全体に難解な熟語があり、具体的に記述することが望めます。なお、多様な担い手の人材確保や活動資金の確保、情報の共有など行政の役割を述べていることは重要です。 6 行財政基盤維持への取組 行政の効率化を行う事は重要ですが、住民が安心して生活出来るように行政活動(仕事)をおこなって頂きたい。	社会動向は、国などの大きな視点で整理しており、本市には当てはまらない内容があり、また、わかりにくい表現や内容を多く含んでいるため、全体を削除する方向で検討しています。その場合は、本市に関連のあるものは、「まちづくりの基本課題」に追加する修正を行います。
--	---

第3章 白岡市の現状 1 人口、世帯の状況 示されている図、表類では期間が10年で全体評価としているが、半世紀程度の歴史的変化も考慮して検討する必要があるのではないか、と思います。2011年～2020年間は5万人～5.2万人を維持している。年齢別では15歳～30代の人口や30代～50代の人口もそれほど減っていない。これは、子育て世代の人たちが白岡市の環境を好ましいと思っていると考えることもできる。 2 産業の状況 (1) 産業別人口比率の推移 第1次産業と第2次産業の就業者減少している。後継者問題を記述する必要あると思います。 (2) 農業の動向 近年は米、果実、野菜の産出額が減少しているがその要因が不明です。 (3) 工業の動向 全体に横ばいあり、具体的な中身の特徴の表示が必要と思います。 (4) 商業の動向 2011年までは横ばい、以降減少の具体的な中身の表示が必要です。 第4章 まちづくりの基本課題 1 健康・医療・福祉 これまでの制度では対応が困難なケースがあるなど、今までの支援体制では市民の福祉ニーズに応えることが出来ないと述べているが、市民が安心して住めるまちとして非常に重要な事なので、具体的な支援体制を明示する必要がある。 2 自然環境・生活安全 計画案全体で述べた通りです。	過去の人口も把握していますが、計画期間は10年としており、どこかの年数で区切る必要があるため、10年分を掲載しています。なお、子育て世代の転入が多いことを追記します。 産業の状況全体として、内容を今後の推移がイメージしやすいように増減の傾向を記載する修正を行います。また、これらを踏まえ、必要と考えられる事項について、総括として強みと弱みを抽出し、課題を記載する方法として修正します。 具体的な事例としては、老老介護や8050問題などを想定しています。これらの内容は、必要に応じて基本計画で位置付けます。
--	---

3 子育て・教育・文化 子育て世代の経済的支援、女性の社会での活躍の観点からも早急な保育所の整備促進・保育士などの経済的支援が必要ではないか。 4 産業・雇用 特に農業従事者の後継者の問題は市として調査をし、学校教育では国内、海外の実践状況などの交流を今はテレワーク等利用し、新型コロナウイルス収息後は対面式の交流なども一案としてはどうでしょうか。 5 都市基盤・住環境・公共交通 現状の交通機関と東西方向の幹線道路整備及び乗り合いバスの充実が必要と思いますが、超少子化高齢社会に対応するため、県の取り組みのコンパクトシティ、A I、I o T、5 G技術活用、エネルギー利活用などの政策と連帯を図りながら都市基盤の強劇化を図っているが、具体的な内容が非常に分かりづらい。住宅環境の点から、空き家などリフォームして希望者に低価格で住居や多目的利用(芸術展示, 小音楽会など)を含めて検討してはどうでしょうか。 6 協働・人権 「安全安心で暮らしやすい地域社会」を目指すことは当然ですが、人類として平和のことも触れておく必要があるのではないのでしょうか。 7 行財政運営 今後、財政負担の増加が問題となることは理解できます。 一定のデジタル化は必要かと思います。個人情報取り扱いの明確化を行い住民の理解が得られてからの実施を強く望みます。また、税制問題も検討課題と思います。 II 基本構想	具体的な取組は、基本計画に位置付けます。 具体的な取組は、基本計画に位置付けます。 具体的な内容は、基本計画に位置付けます。 市の基本課題の項目であるため、人類の平和については、記載していません。 具体的な内容は、基本計画に位置付けます。
--	--

第1章 目指すべき将来像 1 まちづくりの基本理念 2 まちづくりの将来像 衣食住＋医療＋芸術そして平和を受託できるまちとして、自然と調和のとれた先人の知恵を生かすことをまちづくりの理念と将来像とすることが重要かと思います。 Redesign(リ・デザイン)という表現はなじみがないことから上記の様な意味合い表現でどうでしょうか。 第2章 将来フレーム 1 計画期間の人口フレーム 2022年～2031年は現人口52,334人から980人減少して51,454人となると推計しています。 人口構成としては、年少人口と生産年齢人口が減少し、高齢者が増加するとしています。 その対策としてまちの魅力の創出・発信・出産・子育て環境の整備、産業の育成・支援などの施策を展開するとしています。 前項でも述べましたが、人口増加のためには、子育ての経済的支援や保育所、住宅支援などの具体策の提示が必要だと思います。 2 土地利用基本構想 土地利用に当たっては広域的な視点と保全と開発の調和に配慮した秩序ある計画をして頂きたいと強く望みます。 (1) ゾーン別の土地利用の方法性 ① 住宅ゾーン 商業、業務施設の誘致に当たっては住民生活を重視する方向で行って欲しい。 ② 農業共生ゾーン 農地利用の集積の具体的な内容を示して頂きたい。 ③ 都市機能拠点ゾーン	Redesign(リ・デザイン)という意味合いには、自然や文化などを含めてこれまで築き上げてきたまちを更に発展させていくために変化する時代に適応した新たなまちづくりを行い、これまで以上に住みやすい魅力あるまちを市民とともに作り上げていくことを表現しています。 具体的な内容は、基本計画に位置付けます。 具体的な内容は、必要に応じて基本計画に位置付けます。
---	--

魅力ある商業・業務施設を具体的に示して欲しい。 ④ 工業ゾーン 環境に配慮した誘致とするように要望します。 ⑤ 複合的土利用ゾーン 医療・福祉の具体策を示して欲しい。 ⑥ 産業系土地利用検討ゾーン 近傍に教育機関があることから特に環境に配慮した土地利用とすべきであると思います。 ⑦ 沿道サービスゾーン 第3章 分野ごとの政策目標 1 誰もが生き生きと健康に暮らせるまち(健康・医療・福祉) 2 自然等共生した安全で安心して暮らせるまち(自然環境・生活安全) 1, 2については、前項でも述べましたが衣食住+医療+芸術そして平和を受託できるまちとして、自然と調和のとれた先人の知恵を生かすことをまちづくりの理念と将来像とすることが重要かと思います。また、自然災害などでは自助、共助では補えないことが多い事から公助の支援が強く望まれます。 3 次代を担う人と豊かな文化を育むまち(子育て・教育・文化) 前項でも述べたが、子育て世代の経済的支援、女性の社会での活躍の観点からも早急な保育所の整備促進・保育士などの経済的支援が必要だと思います。 4 地域の産業が活性化でにぎわいのあるまち 5 都市機能が充実した快適なまち(都市基盤・住環境・公共交通) コンパクトなまちづくりとは具体的に示してください。	魅力ある各種の施設の例示として、商業施設を記載し、その他も含むものとして業務施設を記載しています。 医療施設や福祉施設を想定しています。内容については、基本計画で位置付けます。 具体的な内容は、基本計画に位置付けます。 市街地や地域の一定の区域に居住や医療・福祉・商業施設などの立地を誘導し、これらを公共交通などでネットワーク化することで地域の方々の利便性の向上を図るものです。
---	---

	6 多様な市民が主体に活動するまち(協働・人権) 7 安定的で信頼される行財政運営(行財政運営) 事業の選択と集中を図るとはどのようなことでしょうか。	限られた財源の中、事業の選択と集中により、効果的、効率的に予算を配分し、確かな成果につなげていくことを表現しています。
6	まず、この構想案の多くの部分が「言わずもがな」の事柄を述べるに留まっていると感じます。第1章「目指すべき将来像」の1「まちづくりの基本理念」には、「市民主体のまちづくり」「チャレンジできるまちづくり」「持続可能なまちづくり」とありますが、これらの逆——「市民不在のまちづくり」(市長と市役所がすべて決定)、「チャレンジできないまちづくり」(進取の気性は不要)、「持続不可能なまちづくり」(衰退か消滅!?)——は常識的にありえず、より実質的な記載が望まれます。 基本構想は何もないところから突然出てくるものではなく、日本および白岡市の現状を土台として「議論する」ことで構築されます。しかし、基本構想の前に置かれた序論は事実の列挙に留まり、そこからどのように構想が導かれたかの道筋が見えません。 構想案には、欠落していると思われる事柄が以下の3点あり、これらについての言及を望みます。 1. アンケートについて 昨年、市は本計画について、千数百万円をかけて市民にアンケートをとりましたが、そのことについての記載がありません。アンケートは、問いの立て方が適切であれば、市民のニーズを的確に把握でき、そうであればこそ、多額の費用を投じて実施したはずです。それなのになぜ、その分析や報告がないのでしょうか。この件はすでに石渡議員が一般質問等で取り上げていますので、それを踏まえてのさらなる検討を望みます。	本計画の作成支援業務委託につきましては、約1,500万円で契約を締結しているところですが、アンケート調査の実施以外にもオンライン市民フォーラムの開催支援や印刷製本費などの経費を含んでいるものです。市民意識調査の結果につきましては、市議会及び白岡市総合振興計画審議会に報告するとともに、会議資料として、市公式ホームページに掲載しているところです。また、本基本構想(案)につきましては、ページ数の関係から掲載の省略をしておりましたが、御意見を踏まえまして、内容を抜粋して掲載します。

2. 予算について 市民の要望は多岐に渡ると思われますが、それにどこまで応えるか。より具体的には、増税により歳入を増やし、より便利で快適な市を目指すか、それとも、それは避けて現状維持に留まるかです。決断は困難と想像しますが、今後の市政の「根」の部分ですから、その掘り起こしを回避して枝葉末節だけ論じても方向が定まらな いと考えます。 3. 事業の広域化について 当市は人口わずか5万で、市単独で実施できることに限りがあります。今後の人口減少の可能性も考慮すると、なおのことです。今は問題なくとも、この先単独での実施が困難になることが懸念される事業は、広域化の検討も視野に入ると思われますが、その見通しは現時点でどの程度ついているのでしょうか。	財源の対応に係る取組は、基本計画に位置付けます。 広域的な取組が必要なものについては、必要に応じて基本計画で位置付けます。
---	---